

十種神宝祝詞 意識

高天原たかまがはらにいらっしやる、皇親神漏岐かむろぎ・神漏美かむろみの命令により、

皇神たちが鑄造した「十種とくさの瑞宝みずのたから」を饒速日命にぎはやひのみことに授けます。

その際、天の祖先神は「貴方は地上界に降りた後、瑞宝を

御倉棚みくらたなに安置して、人々が災厄さいやくや病にかかった時には、この

十種の瑞宝を『一二三四五六七八九十（ひとふたみよいつむ

ゆななやこのたりや）』と唱えながら、ゆらゆらとふるいな

さい。そうすれば死人も生き返るでしょう。」と言いました。

饒速日命にぎはやひのみことは教えられた通りに天磐船あめのいわふねに乗り、河内国かわちのくにの河上の

哮峯いかるがみねに降臨します。その後、大和国の山辺郡、布留の高庭と

いわれる石上神宮いそのかみのかみのみやというところに瑞宝を遷し、その祭祀さいしを行

い、代々その瑞宝みずのたからの御教えみおを人々のために「ふるえの神辞かみごと」

と称して奉仕しました。この瑞宝みずのたからというのは、澳津鏡おきつかがみ・

邊津鏡へつかがみ・八握劍やつかのつるぎ・生玉いくたま・足玉たるたま・死反玉まかるかへしのたま・道反玉ちかへしのたま・蛇比禮へみのひれ・

蜂比禮はちのひれ・品品物比礼くさぐさのものひれの十種のことです。これらを「ふるの御み

魂たまの神」と尊んで祭祀さいしする由来を、平安にお聞きになって、

人々に降りかかる災や病気をも振るい除け祓い去り、長寿と

繁栄を招いて永久に堅固に守護し、幸福をお与えくださいま

すよう、恐縮しながら申し上げます。